



発行:生野区地域福祉アクションプラン 子ども部会
事務局:生野区役所 生野区社会福祉協議会 発行月:2014年 7月 vol.13

まついだ! わっしょい!

いくみん通信第13号はお祭り特集です。
生野区内には7つの神社があり、お祭りなどの行事をしています。また、それぞれの神社には、地域ごとに地車(だんじり)やふとん太鼓があり、お祭りを盛り上げています。

10月の生野まつりでは、それらの地車が一同に集まるので、みごとな光景となっています。今年は10月19日に行いますので、おたのしみに。

今回のいくみん通信には、地名や人名など、むずかしい字がたくさん出てきますが、大人の人や地域の人に読んでもらってください。



田島神社(たしまじんじゃ) 生野区田島3丁目5-34

夏祭り 7月半ばの土日(26年は7月12・13日)

田島の地車(田島地車保存会)

古い記録は洪水などで失われていますが、残った石灯籠(いしどうろう)などに書かれている文字を見ると、少なくとも貞享元年(じょうきょうがんねん・1684年)にはすでに神社があったことがわかります。

その頃は、菅原大神(すがはらのおおかみ)を主神とし、事代主命(ことしろぬしのみこと)・八幡大神(はちまんのおおかみ)をいっしょにおまつりして天満宮(てんまんぐう)と言われていました。

寛政(かんせい)4(1792)年には、少彦名命(すくなひこなのみこと)を主神として天神社と言われ、明治42(1909)年に今の田島神社と言われるようになりました。



巽神社(たつみじんじゃ) 生野区巽南3丁目17-19

夏祭り 7月14・15日 秋祭り 10月14・15日

巽のふとん太鼓(巽大地太鼓保存会・大地青年会)・矢柄の地車(矢柄青年團)

西足代の地車(西足代青年会)・伊賀ヶの地車(伊賀ヶ地車保存会)

四條の地車(四條青年團)・伊賀ヶ西の子ども太鼓(伊賀ヶ西子ども太鼓)

言い伝えによれば、巽神社は応神天皇(おうじんてんのう)をまつり、昔の大地(おおち)村にあり、八幡(はちまん)神社といわれていました。いつ出来たのかははっきりしませんが、平安時代の書物にも邑智(おおち)と書いてあったり、近くの村でも、氏神をまつっていたことから平安時代には神社としてまつられていたようです。

明治40(1907)年4月、大地村の「横野神社」、伊賀ヶ村の「天神社」、西足代村の「天照皇大神社」(てんしょうこうたいじんじゃ)、矢柄村の「熊野神社」、四條村の「天神社」の五つの神社をこの八幡神社の地にいっしょにおまつりすることにし、巽神社と名づけられました。



清見原神社(きよみはらじんじゃ) 生野区小路2丁目24-35

夏祭り 7月31・8月1日 秋祭り 10月15・16日

腹見の地車(東小路青年会)・大友の地車(大友清友会)

片江の地車(片江青年会)・中川の地車(中川正進会)

今の場所には旧大友村の氏神、天武天皇宮(てんむてんのうぐう)がありました。

いつ出来たのかわかりませんが、天武天皇が難波に行かれた時、ここにしばらく居られたことから神社が作られたと言われています。

明治42(1909)年に片江村の素盞鳴尊(すさのおのみこと)神社・中川村の松尾神社・腹見村の木守勝手(こもりかて)神社・大瀬村の八劍(やつるぎ)神社の五つの神社を五つの村のほぼ中央にあたる今の場所にいっしょにおまつりすることにし、村の名前から『小路神社』と名づけられましたが、神社の建て替えをしたときに昭和17(1942)年、今の名前の『清見原神社』にもどすことになりました。



御幸森天神宮(みゆきもりてんじんぐう) 生野区桃谷3丁目10-5

夏祭り 7月19・20日 秋祭り 10月15・16日

勝五の地車(勝山北五地車保存会)・猪飼野の地車(猪飼野保存会)

仁徳天皇(にんとくてんのう)・少彦名命(すくなひこなのみこと)・押坂彦命(おさかひこのみこと)をおまつりしています。

江戸時代には『御幸宮』(ごこうのみや)または『天皇天神社』(てんのうてんじんじゃ)と呼ばれていました。

神社の入り口に立てられた由来を書いた碑(ひ)によると、難波に都を定められた仁徳天皇は鷹狩の折り、当地の森にご休憩されたその由縁により御幸の森と呼ばれるようになりました。

天皇崩御の後、西暦406年、人々はこの森に社を建立し天皇のご神霊を奉祀し御幸の祠とも御幸宮とも称したと伝えられています。(猪飼野 御幸森天神宮 由緒略記より)



彌栄神社(やえじんじゃ) 生野区桃谷2丁目16-22

夏祭り 7月19・20日・秋祭り 10月15・16日

鶴橋の地車(鶴橋若中会)・東桃谷の地車(東桃谷岡地車會)

古い書物によると、文録年間(1592年から1596年)に出雲にあった熊野巫神社(くまのにますじんじゃ)から神様としてまつられている素盞鳴命(すさのおのみこと)様の霊を分けていただき、おまつりしていますとのことでした。

その当時は牛頭天王社(ごずてんのうしや)と呼ばれ、木野(この)村の守り神としてまつられていましたが、明治5(1872)年に彌栄神社(やえじんじゃ)と改められました。その後、大正2年に岡村の御館(みたて)神社をいっしょにおまつりするようになりました。



生野神社(いくのじんじゃ) 生野区舍利寺1丁目2-27

夏祭り 7月13・14日

生野神社地車講

木瓜(もっこう)を神社の紋とする生野神社は、昔は牛頭天王宮(ごずてんのうぐう)と呼ばれていましたが、明治5(1872)年に村社、明治42(1909)年に素盞鳴尊(すさのおのみこと)神社という名前に変わった後、戦後の昭和22(1947)年に生野神社と呼ばれるようになりました。

神社の鳥居は小さめですが、宝永7(1710)年の刻銘があり、生野区内では最も古い貴重なもので、鳥居より背の高い大きな歌碑と榎・いちょうの古木が景観を添えています。

また、神社にある一对の狛犬(こまいぬ)は天保4(1833)年のもので、江戸時代にお伊勢参りが大流行した頃のなごりとなっています。



生野八坂神社(いくのやさかじんじゃ) 生野区生野東4丁目7-11

夏祭り 7月14・15・16日(26年は宵宵宮を追加)

秋祭り 10月の土日(26年は10月11・12日)

生野八坂神社の地車(地車保存会八千代會)

古い書物に『素盞鳴尊(すさのおのみこと)神社が林寺の地にありました…』と書かれていて、神社ができたのは『元禄(げんろく)二巳(1689)年』となっていますが、他にも説があるようです。

昔、東成郡林寺村と呼ばれていた頃に氏神様として崇敬されていましたが、明治41(1908)年に天王寺区の河堀稲生神社(こぼれいなおじんじゃ)といっしょにまつられるようになりましたが、昭和30(1955)年にその霊を分け、『生野八坂神社』と呼ばれるようになり、『生野の祇園様』として今日に至っています。



※ 各神社のお祭りと地車曳航の日程は年によって日程が変わる場合があります。

おわび

第12号のいくみん通信で、こどもカーニバルの司会者名が「ぼんちきよし」さんのと

ころ「ぼんちまさと」さんとなっておりまして、お詫び申し上げます。



地藏盆

(じぞうぼん) 地藏盆は、旧暦のお盆に行われる「お地藏さん」のお祭りです。今では8月23・24日頃に行われています。※地域によっては、前後の土日に行うところもあります。



生野区子ども・子育てプラザの夏祭り

7月26日(土)午後5時30分～午後7時30分

おでんやポップコーン、ヨーヨーつりにくじ引きなどいろいろなお店があります。金券は当日販売しているのでおたのしみに。

問合せ 生野区巽北2丁目4-16

06-6752-8000 雨でもあります。



生野区地域福祉アクションプラン 子ども部会では、子どもたちの健やかな成長、子育てに関する全ての方に子育てを楽しんでいただけることを願って「いくみん通信」をお届けしています！保存版ですので、どんどん集めてくださいね♪